

# 記念すべき第1回

## 水土里ウォークinかみなかは

### 宿場町の面影が残る熊川宿で開催

平成16年10月24日、ふくい水土里の路ウォーキング実行委員会が主催し、上中町の協力で、「水土里ウォークinかみなか」を開催しました。水土里ウォークは、今回が第1回となります。

コースとなった上中町（現若狭町）は『今日は遠ても十八里』と詠われるよう、古くから京都と若狭湾を結ぶ交通の要所で、特に“熊川宿”は古い町並みが連なり、今も宿場町の面影を醸し出しています。当日は、心配されていた天気も秋晴れの晴天に恵まれ、スタート地点の熊川宿には、県内外から120名の参加者が集まりました。

開会式の後、号砲と共に約9kmのウォークがスタートし、熊川宿を仮屋用水沿いに歩き、観光客で賑わい始めた宿場街道の風情を楽しみながら歩きました。



コースの途中には、3ヶ所のチェックポイントを設け、参加者の皆さんにはスタンプを押してもらいながら、農業用水や水利施設の役割や町の歴史・文化を知っていただきました。

第1チェックポイントは“瓜生頭首工”で、熊川宿を過ぎて現れる北川の清流沿いに15分ほど下ると、その堂々とした姿を現しました。

第2チェックポイントは“瓜生中央管理センター”で、頭首工からは平坦なコースでしたが、距離があったので、皆さん疲れてきた様子でした。

管理センターでは、町特産の葛湯のサービスがあり、お昼近くになっていたこともあり、空腹なお腹にあたたかい葛湯は好評でした。

お腹も温まったところで、水土里ネットの職員さんから施設の説明があり、皆さんお腹も頭も満たされた様子でした。

第3チェックポイントは、町指定文化財の安賀里“銀杏仏”で、農業施設だけではなく、町の歴史・文化にも触れていただきました。



管理センターから安賀里を經由して、ゴールの上中農楽舎までは過酷な上り坂だったので、脱落者がいるのではないかと心配されましたが、皆さん無事にゴールされました。

上中農楽舎では、搗きたてのお餅でおいしい歓迎を受け、お土産の特産品と完歩証を手に皆さん満足顔をされていました。

参加者からは、「頭首工のような施設の存在を今まで知らなかった」、「管理センターの役割について勉強になった」といった感想が寄せられたほか、「距離が長くて、後半辛かった」といったご意見もいただきました。